

農推第1149-12号
令和元年3月16日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（3月）

大阪府内の3月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
今冬は記録的な暖冬でした。さらに、向こう1ヶ月は気温が高いと予想されています。例年より病害虫の早期の発生に注意しましょう。また、春は強風の日が多いので、風のある時間帯は散布を避けるなど、薬剤散布の際はドリフトに注意しましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

◎ 「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎ 「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>▲病害虫防除グループ
ホームページ

▲防除指針

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

目次

- | | |
|-------------------------------------|-------|
| 1 果樹(ぶどう、いちじく、もも、バラ科果樹(もも、すもも、うめ等)) | P.1~3 |
| 2 野菜(トマト・ミニトマト、なす、たまねぎ) | P.4~5 |

新着情報

防除情報「たまねぎ 白色疫病 注意！」発表しました(令和2年3月13日)

次回の情報は4月中旬頃にお知らせします。

果樹

ぶどう

灰色かび病



特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆胞子(分生胞子)が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

- ◆ハウス栽培ではビニールマルチをし、換気を十分に行い、湿度を低下させる。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆開花直前または落花直後にゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、ネクスターフロアブルなどを散布する。

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

- ◆早期加温栽培では3～4月に被害を受けやすい。

防除のポイント

- ◆成虫発生初期から終期まで、フェロモンディスペンサー(ヨトウコン-H)を設置する。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、ディアナWDGなどを散布する。

ハダニ類



カンザワハダニ※

特徴

- ◆加温機の近くやダクトの先端部など、高温になりやすいところから発生する。

防除のポイント

- ◆発生を確認した場合は、マイトコーネフロアブル、ダニコングフロアブル、ダニトロンフロアブルなどを散布する。

いちじく

ハダニ類、カイガラムシ類



カンザワハダニ※



フジコナカイガラムシ幼虫※

防除のポイント

- ◆3月中旬（発芽前）に石灰硫黄合剤を散布する。

もも

せん孔細菌病



春型枝病斑



葉の病斑

特徴

- ◆春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑（スプリングキャンカー）を生じる。

防除のポイント

- ◆開花期直前にICボルドー412を散布する。（葉害を生じるおそれがあるため、開花後から8月末までは使用しないこと）
- ◆春型枝病斑を見つけたら、落花期までに切り取ってほ場外に持ち出し処分する。
- ◆風当たりの強いほ場では防風ネットを設置する。
- ◆生育期はアグリマイシン-100、チオノックフロアブル、マイコシールドなどの登録薬剤を10日間隔で散布する。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

クビアカツヤカミキリ



特徴

- ◆成虫は体長4cm程度。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から10月頃に中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出す。
- ◆フラスが発生している穴には幼虫がいる可能性が高い。

防除のポイント

- ◆被害が大きい樹は伐採し、破碎や焼却することが望ましい。
- ◆伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。

伐採後の切株について



野焼きについて

- ◆廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、野焼きは原則として禁止されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。
- ◆例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

処分に伴う運搬について

- ◆特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。
- ◆市町村焼却施設（もしくは市町村の清掃工場）で焼却可能な場合は、ネットで被覆するなどの分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。詳細は下記の技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」のP10「2. クビアカツヤカミキリの運搬および保管について」を参照してください。

詳しい防除方法は技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」を参照して下さい。

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii\(H3104\).pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii(H3104).pdf)

野菜

3月の病害虫発生状況

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
トマト・ミニトマト (施設栽培)		すすかび病			
なす (施設栽培)		アザミウマ類			
たまねぎ			ネギアザミウマ	べと病	
				白色疫病	

トマト・ミニトマト(施設栽培)

すすかび病



被害葉 表(左) 裏(右)※

特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病より、かびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤、パレード20フロアブルなどを散布する。

なす

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆苗からの持ち込みによる発生が多く見られている。

防除のポイント

- ◆発生が見られたら、ディアナSC、アファーム乳剤、モベントフロアブルなどを散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所
*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

たまねぎ

べと病



早生系統に発生した二次病斑、暗紫色のかびに覆われる

特徴

- ◆ 苗床・定植後に、作物残さなどから感染する。春期に発生する二次感染株は、気温が15℃前後で、雨や曇りの日が多いと増加する。特に、3月中下旬から5月上旬にかけて曇雨天が続くと、発生が多くなる。

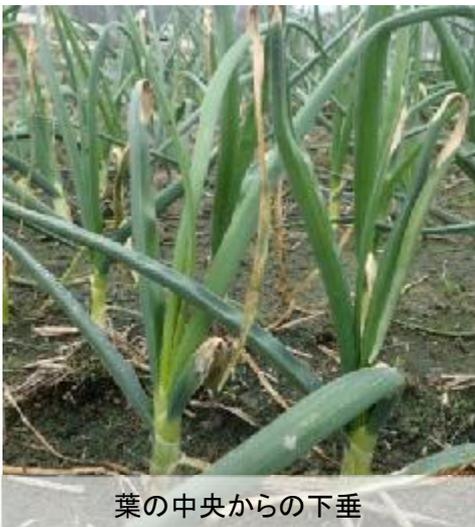
防除のポイント

- ◆ 発病した株は感染源となるので、抜き取る。抜き取った株は肥料袋などに集め、ほ場外へ持ち出した上で、適切に処分する。

詳細は2月13日発表の防除情報
「たまねぎ べと病注意！」参照

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyojyouhou/R202tamaneji%20beto.pdf>

白色疫病



葉の中央からの下垂

特徴

- ◆ 2～3月が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

詳細は3月13日発表の防除情報
「たまねぎ 白色疫病注意！」参照

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyojyouhou/R20313shiroeki.pdf>

ネギアザミウマ



ネギアザミウマ ※

特徴

- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤を連用を避け、ローテーション散布する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、ディアナSC、グレーシア乳剤、プレオフロアブルを散布する。

● 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

● 農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)